

IV-112

地方鉄道の地域貢献に関する研究

福井大学大学院 学生会員
第一建設工業

川本義海
曾我知之

福井大学工学部 正会員 嶋田喜昭
福井大学工学部 正会員 本多義明

1. はじめに

地方都市においては、自家用車の普及とともに公共交通機関の利用者は減少の一途をたどっていることから、公共交通としての意義はかつてより薄れてきたと言われる。しかしながら今後一層進む高齢社会への対応、また自家用車を利用できない人が存在する限りその存在は否定されるのではなく、人々に身近な公共施設として、将来を見据えた新たな評価の視点が必要である。

そこで本研究では、公共交通の将来的意義を幅広い観点から探っていくために、福井鉄道福武線を例に地域貢献に関するアンケートをおこない、そこから地方鉄道が持つ社会的意義を、単に交通機関としてだけでなく「公共交通機関の地域に対する貢献」といった視点から捉える。またデマテル法を用いて地方都市における鉄道が将来的に地域にどのように貢献できるのかを人々の意識の構造から明らかにする。

2. 地方鉄道としての福武線の地域貢献

(1) 福武線の地域貢献に関するアンケートの実施

まず福武線の地域貢献に関する意識を探るためアンケートを実施した。アンケート項目の作成にあたり、「福武線が地域にどのように貢献するか」をテーマに研究グループ(12名)を設け、そこでブレインライティング法によりメンバー各自が思い浮かんだ項目をすべて書き出した。その結果、重複する項目を含む144項目が得られた。次にそれら144項目各々の地域に対する貢献の度合いを4段階で評価し、その中から貢献の度合いの高いものを抽出、似通ったものを統合して最終的に表-1に示す18項目を得た。そしてこれら18項目に対する2次調査を実施し、デマテル法によって意識の構造化をおこなった。

(2) 福武線の地域貢献に関する意識の構造

本研究では、意識の構造化にデマテル法を用いた。デマテル法は複雑な社会現象に対する個人の意識や判断を構造化する手法の一つであり、各問題項目間の関連性を定量的に分析でき、複数の被験者の考え方を統合することが可能であるため共通認識が得易いといったことに大きな特長がある。

ここでは、デマテル法により先の18項目について、以下に示す重要度、関連度といった指標をもとに各項目間

表-1 福武線の地域貢献の項目(18項目)

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| ○ 1. 通勤・通学者の足の確保 | ○ 利便性
◎ イメージ
□ 交通弱者
◆ 地域環境 |
| ○ 2. 大量輸送手段の提供 | |
| ○ 3. 定時性の確保 | |
| □ 4. 自動車を利用できない人に対する交通手段の提供 | |
| □ 5. 高齢化社会への対応 | |
| ○ 6. 代替交通手段の確保 | |
| ◆ 7. 雪に強い交通手段の確保 | |
| ◆ 8. 資源エネルギーの節約 | |
| ◆ 9. 地域の自然(都市)環境の保全 | |
| ◎ 10. 地域アピール効果 | |
| ◎ 11. 地域拠点形成効果 | |
| ◎ 12. 路面電車の希少価値 | |
| ◎ 13. 地域イメージの向上 | |
| ○ 14. 新交通システムへの可能性 | |
| ◎ 15. 電車のある魅力的な街並みづくりへの住民参加 | |
| ○ 16. 公共交通網の充実 | |
| ◆ 17. 交通渋滞の緩和 | |
| ○ 18. 来訪者に対する足の提供 | |

の関係を示し、福武線の地域貢献に対する意識の構造を明らかにする。

【重要度】その項目が他の項目に与える影響の大きさ

【関連度】その項目の項目とのつながりの深さ

この重要度、関連度から、意識の構造はおおむね次の2つのグループに分けることができる。

Groupe 1

利便性に関する項目の評価が高いグループ。

【重要度】「14:新交通システムへの可能性」が最も高く、次いで「16:公共交通網の充実」が高い。逆に「3:定時性の確保」が最も低い結果となった。また項目間で最も影響関係の強いのは「4:自動車を利用できない人に対する交通手段の確保」から「5:高齢化社会への対応」である。

【関連度】「1:通勤・通学者の足の確保」が最も高く、次いで「4:自動車を利用できない人に対する交通手段の確保」、「3:定時性の確保」などが高い。逆に「12:路面電車の希少価値」、「9:地域の自然(都市)環境の保全」などは低い。

Groupe 2

利便性という実質的な面もさることながら、地域のイメージといった理念的な面の評価も高いグループ。

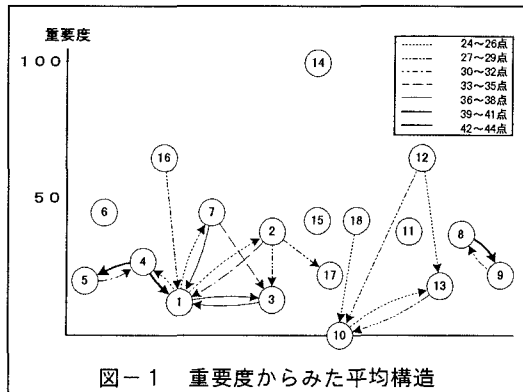
【重要度】「16:公共交通網の充実」が最も高く、次いで「12:路面電車の希少価値」、「14:新交通システムへの可能性」が高い。逆に「10:地域アピール効果」が最も低い。また

項目間で最も影響関係の強いのは「4:自動車を利用できない人に対する交通手段の確保」から「5:高齢化社会への対応」である。

【関連度】「7:雪に強い交通手段の確保」が最も高いが、他の項目も比較的高い。

(3)福武線の地域貢献に関する意識の平均構造

図-1は重要度からみた平均構造を示したものである。この図では、重要度の高い項目(最も高い項目を100として基準化)ほど上に位置し、左右の位置関係は意味を持たない。また矢印は影響の向きとその度合いを表している(関連度(図-2)についても同様)。



重要度は「14:地域イメージの向上」が最も高いが他の項目への影響は図示されていない。これは特定の項目に大きな影響は与えていないものの、小さな影響を全体に与えているためである。これを除くと「16:公共交通網の充実」,「12:路面電車の希少価値」の重要度が高い。逆に最も影響力の小さいのは「10:地域アピール効果」である。また項目間で最も影響関係が強いのは、「4:自動車を利用できない人に対する交通手段の提供」から「5:高齢化社会への対応」である。

図-2は関連度からみた平均構造を示したものである。関連度は「1:通勤・通学者の足の確保」が最も高く、次いで「7:雪に強い交通手段の確保」,「4:自動車を利用できない人に対する交通手段の提供」となっている。逆に「8:資源エネルギーの節約」,「9:地域の自然(都市)環境の保全」は関連度が低い。

図-3は各項目の影響の流れを示したものである。これより、福武線の地域貢献は「利便性の面」「地域イメージ面」「交通弱者に関する面」「自然(都市)環境面」といった4つの分類の中でも、特に利便性の面では「通勤・通学者の足の確保」に、地域イメージ面では「地域アピール効果」に影響が帰着していることが分かった。

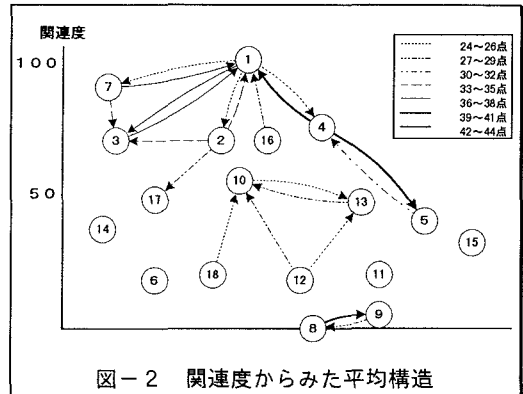


図-2 関連度からみた平均構造

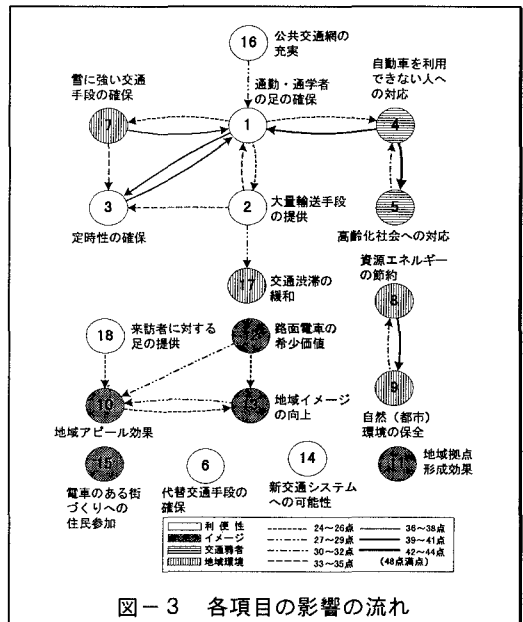


図-3 各項目の影響の流れ

3. まとめ

本研究では、地方都市における公共交通の一つである福井鉄道福武線の地域貢献の内容とその構造を意識の面から明らかにした。その結果、福武線の地域貢献はおおむね「利便性の面」「地域イメージ面」「交通弱者に関する面」「自然(都市)環境面」の4つに分類して考えることができること、またそれらの相互関係を意識の構造から示すことができた。一般的にこれまで交通機関はおもに利便性の面で評価されることが多かったが、今後は上記の観点からも正当に評価されるべきであると考えられる。そのためには、本研究で得られた地域貢献の内容と意識の構造に沿った具体的な施策を講じつつ、その社会的意義を人々に広く認識してもらうことが必要である。